Rosario Quarterly Information
広報
ロザリオ

社会福祉法人
ロザリオの聖母会
千葉県旭市野中4017
Tel（0479）60-0600
ホームページアドレス
http://www.rosario.jp
Eメールアドレス
honbu@rosario.jp

第27回（平成30年度）ロザリオ福祉作文コンクール

第26回福祉作文コンクール入賞者のみなさん（平成29年12月9日撮影）

福祉作文全体評

【ロザリオ福祉作文コンクールに応募した小中学校児童生徒の作品を審査して】

御協力いただいた学校の先生方に感謝申し上げます。日頃の福祉に対する御指導によって作品に表現された児童生徒の福祉意識はたいへん高く、人間が人間として大事にされるあたたかい社会をめざしていることがはっきりと表現されていることがうかがえます。

ロザリオの聖母会では三十年前より児童生徒に福祉意識をたかめていただきたいと福祉作文の募集を行って参りましたが、関係者の御努力により大きな成果を収めてありがたく存じております。

今回は小学校十二校五十七作品、中学校十校五十五作品を拝受いたしました。

【作品全体の特色として】

一、高齢社会の中で高齢者の身体不自由、認知症症状が目立ち、特に自宅の「おじいさん、おばあさん」の日常生活の不自由さが痛感され、あたたかい介護に努力していきたいと願っていることがよく分かります。

二、福祉施設へのボランティア体験や施設のリハビリのようすなど、たいへん理解が深まり、多くの関係者が熱心に取り組んでいることを知り、自分もその努力を身につけていきたいと思うことが表現されていました。

ロザリオの聖母会は日本でも有数な福祉施設で医師・看護師・技師・介護職員・給食職員・事務職員ら合わせて六百余名が行政や地元の御協力をいただきながら日夜活動を続けております。

そして更にボランティアの方々も熱心に活動してくださっています。

作品の中で障害者に対する「差別意識」がありませんでした。「かわいそう」「私は健康でしあわせだが、面倒な人たちだ」という邪魔者扱いが、みられないのはたいへん良いことで日頃の御指導の成果だと考えています。

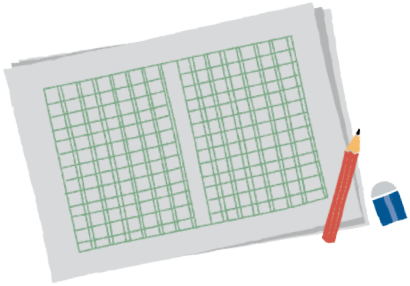
これから尚一層に未来を担う児童生徒に対して「心のあたたかな」「障害を持った人々への関心をたかめ」「人権意識の高い児童生徒であるように」父母の皆様、学校の先生方、施設の職員共が協力して育てていきたいと願っています。

平成三十年十二月

【審査委員】

鏑木　正（銚子市）
平山　孝雄（匝瑳市）
松井　安俊（旭市）

※元教育庁指導主事関係
（五十音順）



4年生選評

○1席　旭市立中央小学校
金谷　実咲輝 さん

【おじいちゃん大丈夫】

おじいちゃんが病気にもまけずがんばっているそうですが、お手伝いをしたり、おうえんしたりしてあげてください。

○2席　旭市立嚶鳴小学校
石毛　歌楽 さん

【心と心の深め合い】

体の不自由なおとしよりにおてつだいをしたり、よろこぶことをしてあげることはたいへん良いことです。

○2席　旭市立豊畑小学校
飯島　真響 さん

【自分の障害】

障害に負けずにがんばっているのはえらいですね。子ども病院で明るくすごしているのはりっぱです。

○2席　旭市立古城小学校
野口　璃子 さん

【おばあちゃんのいるしせつに行ってみて】

ロザリオの施設について勉強したのはえらかったですね。おばあちゃんは障害をもちながら、いっしょうけんめいに生きています。しんせつにあたたかくお手伝いをしてください。

○3席　旭市立中央小学校
平山　時季子 さん

【兄とくらす】

障害のあるお兄さんはいろいろ悲しいこともあるでしょう。その

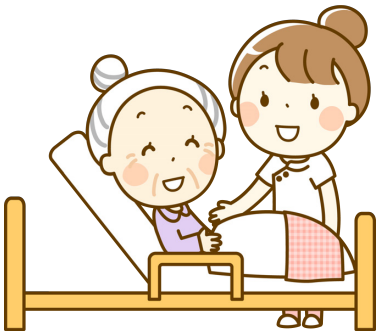
お兄さんのために、お手伝いをし、楽しい毎日であるように考えているのはたいへん立派です。

○3席　旭市立干潟小学校
平山　和奏　さん
【元気になってね、ひいおばあちゃん】
ひいおばあちゃんが元気になるように、ボランティアスクールに参加していろいろ病気の人のお手伝いを知ったのはたいへんえらかったですね。

5年生選評

○1席　旭市立嚶鳴小学校
釜形　優衣奈　さん
【ひいおばあちゃんとの思い出】
五月になくなったひいおばあちゃんに、あたたかくお世話してあげてえらかったですね。この思い出から、多くの障害を持つおとしよりにもお手伝いをしてあげてください。

○2席　旭市立豊畑小学校
宇井　凜桜　さん
【私の考える「福祉とは?」】
福祉について勉強したことはえらかったと思います。ボランティア体験をし手話や介護についていろいろ知ろうと思った姿はりっぱです。



○2席　旭市立中央小学校
小川　緩菜　さん
【幸せそうな人々】
ロザリオ聖母会へ行っていろいろなことを知ったのはたいへん良かったですね。体の不自由な人のために仕事をしたいと思ったのは立派です。あたたかくしんせつな仕事のできる人は人間としてえらい人です。

○3席　旭市立干潟小学校
長谷川　航汰　さん
【ぼくの四人の祖父母】
四人の祖父母についてよくお手伝いをしてください。高れい化社会の日本です。みんなで力を合わせておとしよりを大事にしましょう。

○3席　旭市立中央小学校
越川　佳音　さん
【おばあちゃんとの生活】
認知症のおばあちゃんとの生活を楽しくすごしているのはえらいですね。花のすきなおばあちゃんの生きがいをよくお世話してあげてください。

○3席　銚子市立双葉小学校
小林　茉緒　さん
【ひいおばあちゃん、いつまでも元気でね!】
ひいおばあちゃんとの生活でよくお世話してあげているのはえらいですね。これからの世の中でこのようなおとしよりがふえてきます。あたたかく見守ってください。

6年生選評

○1席　旭市立豊畑小学校
石槁　陽光　さん
【僕の普通と障害者の思い】
自分が普通だと思っていたことの中に、障害者にとっては不便な面がたくさんあることに気付きました。それを解消するためには、施設設備の整備はもちろんのこと、それ以上に障害者への優しい心遣いが最も大切であると考えるようになりました。

○2席　旭市立中央小学校
林　青空　さん
【初体験!地曳き網体験!!】
あまり意識せずに取り組んだボランティア体験でしたが、活動を通して障害者の方々との関わり方を数多く学ぶことができました。

障害のある方への配慮を考えるより、一つのことを一緒に思い切り楽しむことが大切だということに気付きました。

○2席　旭市立共和小学校
丸山　心優 さん

【貴重な体験】

二年連続の福祉施設で体験したことにより、さまざまなことを学び取ることができました。障害のある子たちとふれあい、気持ちにより添うことで、今以上に手伝えることも増え、相手の気持ちに共感できるようになることに気付くようになりました。

○3席　旭市立中央小学校
大木　愛結 さん

【車イスのおじいちゃん】

車椅子生活をする祖父と一緒に暮らすことにより、車椅子を使いこなす苦労だけでなく、多くの不便さを知ることができました。体が不自由な方にとって望ましい環境作りや困っている方に進んで手伝いをしていくという日頃の関わり方を考えるようになりました。

○3席　旭市立琴田小学校
鈴木　悠太 さん

【ぼくの初子ばあちゃん】

体の不自由な曾祖母との関わりを通して、以前より介護することができるようになったことを自覚するようになりました。また、介護を必要としている方への配慮が何よりも大切であり、進んで手をさしのべていこうとする気持ちが生まれてきました。

○3席　旭市立干潟小学校
鈴木　義央 さん

【福祉って何】

福祉施設でのさまざまな体験を通して、障害者の方が精一杯働いている姿に感動することができました。さらに、福祉とは何かを自分に問い、障害者へのよりよい接し方を常に考えながら、今後一層努力していこうとする思いを持てるようになりました。

中学1年生選評

○1席　旭市立海上中学校
浅野　美咲 さん

【私の祖父と私の夢】

脳内出血で倒れた祖父の病気により、これまで気付けなかったことを知るとともに、少しの優しさや気遣いによって、困っている人への手助けができることを知りました。さらに、将来は人を助け、笑顔にする職業に就きたいと思うようにもなりました。

○2席　旭市立第一中学校
稲村　心愛 さん

【高齢者疑似体験を通して】

高齢者疑似体験を通して、今まで知らずに過ごしていたことや高齢者には大変危険なことが数多くあることに気付きました。また、日常生活におけるささやかな思いやりや気遣いにより、人々が幸せに暮らしていけるということを理解することができました。

○2席　旭市立第二中学校
江波戸　莉夢 さん

【障害をもった人たちと私たち】

障害を持つ姉との生活の中で、周囲の人の視線や態度からさまざまなことに気付きます。偏見や差別のない社会を作っていくこと、障害を持つ人の生活に役立つことがあれば全力で取り組むことが重

要であるということを考えるようになりました。

○3席　旭市立飯岡中学校
菅生　果玲采 さん

【大きな変化】

施設訪問を経験することにより、これまでとは異なる対応を考えるようになりました。高齢者や体の不自由な人の苦労に共感するとともに、今自分にできることは何かを考えて、ささやかではあるが、行動できるようにしたいという思いを持てるようになりました。

○3席　旭市立海上中学校
飯田　翔太 さん

【ぼくの姉】

障害のある姉と一緒に過ごすことにより、人一倍頑張る姉を尊敬しています。体が不自由でも笑顔でいる姉から元気をもらっています。偏見や差別をするのではなく障害のある人により添い、相手の立場を考え、手をさしのべていこうとしています。

○3席　匝瑳市立八日市場第二中学校
今井　香純 さん

【介護を体験して】

福祉施設での認知症介護体験を通して、入所されている方への対応の仕方をいろいろ学び取ることができました。介護する仕事のすばらしさを知るとともに、自らの高齢者への関わり方を積極的に考えていこうとする気持ちが芽生えました。

中学2年生選評

○1席　銚子市立第六中学校
金子　瑞季 さん

【花（えがお）を絶やさないように】

障害をもつ子どもとその家族をサポートしてくれる施設の先生に憧れ、発達支援センターで職場体験をしました。その先生は常に優しい笑顔で接していました。

発達障害をもっている兄との生活で生じる、さまざまな心のかっとうが赤裸々に表現されています。

○2席　旭市立飯岡中学校
岩瀬　蓮 さん

【人との繋がり】

病院と介護施設での職場体験を通していろいろ学びました。

人との接し方は、心のつながりが大事であり、そのためには互いに理解し、わかり合うことが必要だと述べています。

○2席　旭市立飯岡中学校
加瀬　野乃香 さん

【老人ホームで学んだ三日間】

特別養護老人ホームでの三日間の職場体験学習のようすが詳しく述べられています。

一人一人の症状に合わせて介護したり、接することが大事だとわかりました。そして、「今」を大切にして、笑顔で日々を過ごしていこうと決意しています。

○3席　旭市立第二中学校
宍倉　美波 さん

【祖母の介護奮闘記】

祖母が二人の曾祖母を介護したようすを詳しく述べています。一人は施設で、もう一人は在宅で介護しました。まさしく介護奮闘記で、奮闘する祖母の姿を温かい目で見つめています。そんな祖母のことを尊敬しています。

○3席　銚子市立銚子中学校
川村　陽花里 さん

【小さな行い　すがすがしい気持ちに】

学校の帰り道にごみが多いことに気づき、友達と一緒にごみ拾いをしました。やってみると、ごみは想像以上にありました。何も考えずにごみを捨てる人が多いのです。

作業の間に出会った人達から感謝され、人の温かさを感じました。これからも積極的に生きていこうと誓っています。

○3席　旭市立飯岡中学校
石井　奏音　さん

【職場体験学習で学んだこと】

老人福祉施設での三日間の職場体験学習が書かれています。利用者の方への接し方や工夫された介護の仕方などを学びました。体験学習で利用者の方が喜んでくれ、大変だがとてもやりがいがある仕事だと思っています。

○3席　旭市立第二中学校
塙　唯吹　さん

【祖父と私】

大病で緊急手術をした祖父のようすを詳しく書いています。大病後の祖父は退院しても動作が遅くなってしまいました。私はじれったくなることもありますが、温かい目で祖父を見つめています。

中学3年生選評

○1席　旭市立第一中学校
成井　希帆　さん

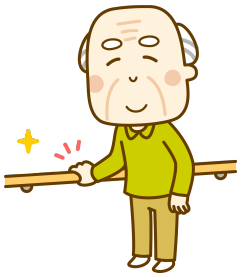
【始めよう、ボランティア】

福祉施設での体験や福祉まつりでのボランティア参加で、障がいをもっている多くの方々とふれあいました。この体験から、障がい者の方々と一緒にふれあうことで、自分がどうすればよいのかが見えてくると述べています。

○2席　旭市立飯岡中学校
渡辺　大介　さん

【祖父の夢】

病気になって歩けなくなった祖父の夢は、もう一度歩けるようになって、仕事をすることです。その夢をかなえるために祖父の介護を手伝った様子が書かれています。ズボンをはかせる苦労など、介護の実際が生き生きと描かれています。



○2席　匝瑳市立野栄中学校
佐々木　香花　さん

【いろんな人がたくさんいる】

福祉施設や特別支援学校でのボランティア活動を通して、いろいろな人とかかわってきました。活動する前はいつも、どのように接したらいいか不安でした。だが、やってみるとその心配は必要ありませんでした。常に相手のことを考えて接することが大切だと述べています。

○3席　旭市立飯岡中学校
平野　奈々美　さん

【守るべき命】

現在、社会問題になっている虐待事件といじめ事件を取り上げています。子どもを虐待してしまう母親やいじめを受けている人は、家族や周りの信頼できる人に相談することが大事だと述べています。命の大切さを訴えています。

○3席　旭市立海上中学校
伊藤　彩弥香　さん

【デイサービスと介護士】

デイサービスセンターでの職場体験学習で二つのことを学びました。

一つめは、介護士が利用者一人一人に丁寧に接していたこと。二つめは、介護士、利用者とも互いに笑顔で相手を思いやる姿です。

このことから、介護士になりたいと思っています。

○3席　匝瑳市立八日市場第一中学校
及川　愛莉　さん

【未来】

明るい未来とは、すべての人が協力し、互いに支え合うことのできる社会の実現だと述べています。そのためには、情報を得るだけではなく、だれかのために役立てようとすることが大切だと訴えています。

◇優秀作品紹介◇

おじいちゃん大丈夫

旭市立中央小学校
四年　金谷　実咲輝

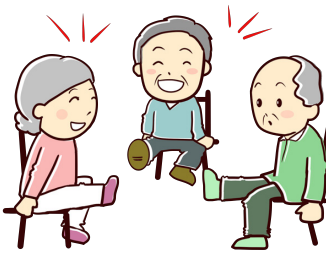
私は、介護についてテレビなどでは聞いたことはあったのですが、自分の家にはあまり関係のない話だなぁと思っていました。一緒に住んでいるおじいちゃんおばあちゃんも、お母さんの方のおじいちゃんおばあちゃんも、ボランティアをしたり、自分の趣味を楽しんだり、四人で旅行へ行ったりしているので、考えた事はありませんでした。

しかし、今まで元気だったのに突然その日がやってきました。お母さんの方のおじいちゃんが、脳内出血で倒れました。頭の痛みがひどかったそうです。

その後、左側の手足に麻ひが残りました。病院退院後、五ヶ月間リハビリ専門の病院へ入院しました。その時介護申請、そして、おじいちゃんは介護が必要と認定されました。リハビリの時、病院のスタッフの方々は、一所懸命に声をかけて生活をサポートしてくれていました。五ヶ月後、しっかりと歩けるようになりました。左手も普通に使えるようになり、私と話す時も笑顔がみえ、じゃっかん体の動きはゆっくりですが、倒れた時からは想像できない回復力です。人間の体はすごいと感じました。再発しないで、元気に楽しく生活して欲しいと、家族みんなで願っていました。

それから二年が過ぎたある日、今年の六月に再発しました。同じ所からの出血でした。症状は前回より重いと先生から説明がありました。薬の影きょうで出血が多く手術を行いました。いつも面会に行くと、看護士さんや理学療法士の方は、昨日の様子や、リハビリ状況をていねいに教えてくれます。おじいちゃんは、あまり声を出さなくなりました。うなずくばかりです。看護士さんや介護をしてくれる方は、汗ばんだ背中をていねいにふいてくれています。ひげが生えると「痛くありませんか。」と声をかけながらそってくれています。体調が落ちつくと、リハビリの開始です。今まで出来ていた動作も、ベッドで寝ていたせいか、動きが大変そうです。でも、おじいちゃんは息が上って、額に汗がにじむほどがんばっていました。病状も安定してきたので、リハビリ専門の病院に転院する事になりました。

今、おじいちゃんは、必死にがんばっています。関節がかたくなり痛みがともなっても、すごい顔になりながら、リハビリにはげんでいるとおばあちゃんが話してくれます。私は九歳なので病室に入る事ができません。リハビリが終って帰る時だけ、ホールで会う事ができます。先日会った時、「おじいちゃん大丈夫？」と言うと「みいちゃん心配ない。」と笑って答えてくれました。手をそえると、にぎり返してくれて力強く感じました。お母さんは、病院へ行くと、家族に電話をかけてきます。最近の様子を心配していたおじいちゃんに電話をかけてきました。大きな声で会話ははずみ、二人とも笑いながら楽しそうでした。「まだおっちんでられないよ。」と大きい声で言っているのが、電話から聞こえてきました。みんな、大爆笑です。



私達家族は、一日も早く、良くなってくれる事を、心から願っています。

またある夏休みの日の朝、お母さんとコインランドリーのそうじに行った時の事です。いつものお客様がたくさんのタオルの入ったカゴを持って入って来ました。お店の前のデイサービスの方です。「おはようございます。」と言うと、元気なあいさつが返ってきました。「いつも助っています。タオルを乾燥機にかけるとふわふわで、皆さんやわらかいと言ってくれます。」と話していました。私は、天気がいいから天日干しでも十分乾くのに、デイサービスに来る皆さんのために、気持ちよく利用できるように心づかいをしてくれているんだと感じました。思いやりの気持ちで介護の仕事は成り立っていると思いました。

介護は本当に大変です。本人も大変です。でも介護をしてくださる方々は、少しでも快適に過ごせるように、一日一日を本当に大切に親切にはげましてくれています。その気持ちにこたえようと、おじいちゃんは今、がんばっています。

私は、看護士、理学療法士の方がいたので、今がんばって本格的なリハビリのできる病院にいることができたんだと思っています。

医師から前回より重いと聞いたので、一日でも早くたくさんの人を楽しませる、笑わせる、おしゃべり上手な元気いっぱいのおじいちゃんに会いたいです。

ひいおばあちゃんとの思い出

旭市立嚶鳴小学校
五年　釜形　優衣奈

介護・福祉と聞いて、すぐに頭に浮かんだ人がいます。

それは、お母さんの方のひいおばあちゃんです。ひいおばあちゃんは、足が悪くて、車いすを使っていました。七十代で階段から落ちて、腰の骨をケガしてしまったのがきっかけだと聞きました。リハビリを頑張りながら生活を送ってきたそうです。出かける時は、自分では、動けないので、必ず誰かが一緒に行って車いすの乗り降りやトイレの介助をしています。その中で、

「私にできる事はないかな。」

と考えた時に、私もお母さん達と同じように車いすをおしてあげたり、トイレの介助をしたりしたいと思いました。実際にやってみて特に大変だなぁと思ったのは、トイレの介助です。体を支えてあげることが大変でした。ですが、その時、ひいおばあちゃんに言われたことがあります。それは、「ありがとう。」というひと言でした。ひいおばあちゃんは、私が手伝っている姿を見て、うれしそうな顔をしていました。私は、助けになっているんだと思うと、うれしくなりました。そして、お母さんも

「ありがとう。」

と言ってくれて、うれしかったです。人の助けがないと、日常生活を送るのも大変だし、実際に少しだけど手伝ってみて、力が必要で大変さを知りました。

ひいおばあちゃんは、足は悪いけど、手先は器用で、折り紙でかさを作ってくれたり、四ツ葉のクローバーを一緒に折ったり、針と糸を使えば、着物や浴衣、まりも作ったりできる、すごいひいおばあちゃんでした。しつけにもきびしくて、時には、悪いことをしたら怒ってくれたり、なぜ怒られたか教えてくれたりもしました。そんなきびしさも、優しさも持っていたひいおばあちゃんが今年の五月に亡くなってしまいました。すごく悲しくて、さみしくて

泣きました。

ひいおばあちゃんがいてくれたから、私が出来た経験です。この経験を生かして、時々ひいおばあちゃんを思い出しながら、他のお年寄りに接していければいいなぁと思いました。

ぼくの普通と障害者の思い

旭市立豊畑小学校
六年　石槁　陽光

ぼくは、普通に生まれて、何も不自由なく生きてきました。

例えば、道を歩いていたら、右を歩く、自転車だったら左を走る。信号が、点めつしたら、急げば間に合うと思って、小走りになる。それが、普通だと思っていました。

しかし、弟が生まれてから、気づいたことがあります。弟は足が悪く、少しは歩けますが、道を歩くときは、お母さんが車いすをおして信号を渡ります。ぼくが、点めつ信号で渡ろうとしたら、止められたことがありました。ぼくは、「なぜなんだろう」と、思いました。不思議そうにしているぼくに気づいたお母さんは、

「点めつで渡っても、車いすだから、そんなに早く渡れないから間に合わないんだよ。」

と話してくれました。よく見ると、横断歩道の最初と最後に少し段差がありました。ぼくは「確かに、これでは間に合わないな。」と思いました。しばらく歩いていると、黄色のおうとつのある線がありました。

「目が不自由な人がつえを使って歩くときに使われるんだよ。」

と、教えてくれました。

ぼくは、目が不自由な人たちをあまり、見ることはないのですが、テレビなどで、つえを使って歩いている人だったり、車いすを一人で動かして移動したりしている人を最近目にするようになりました。

目の悪い人には、おうとつがある黄色い線だったり、車いすの人には階段ではなく、バリアフリーの坂があったりと、障害者の人たちのために、たくさんの便利な施設があることに気づきました。

でも、世の中には、まだまだ不便で危険な場所がたくさんあります。弟とお母さんが車いすでふみ切りを渡ろうとしたとき、線路のみぞに車いすのタイヤがはまってしまったことがあったそうです。困っていると、通りがかった親切な人が車いすの前を持ち上げてくれたそうです。このような危険な場面では、やはり、人の助けが一番うれしかったようです。

ぼくが、普通だと思っていた世の中は、障害者や、お年寄りが横断歩道を渡り終わる時間を考えていなかったり、線路のみぞだったりと、健康な人中心に作られているのではないか、ということです。

ぼくは、弟やたくさんの障害がある人たちにとって、だれもが暮らしやすく、安心して生活できる社会になってほしいと思います。

最近は、ほとんどの大型店ぽや駅などで、エレベーターが見られるようになってきました。しかし、中にはエスカレーターと階段しかない所もあります。そういうところは、弟にとってはとても不便です。お母さんから聞いたのですが、階段に「エスカル」というものを付けると、車いすのまま上り下りできる装置があるようです。場所の都合でエレベーターが付けられない所でも、「エスカル」ならば、それほど場所を取らないので、取り付けることが可能になると思います。予算のこともあるかもしれませんが、取り付けることで、体の不自由な人たちの視野

が広がると思います。

でも、一番大切なことは何かと考えてみました。ぼくは、弟とお母さんを助けてくれたやさしい人のように困った人がいたら、すぐに手をさしのべられる人になりたいです。みんなが同じ気持ちをもつことができれば、どんな人でも、不便を感じることのない「当たり前」の社会になると思います。

私の祖父と私の夢

旭市立海上中学校
一年　浅野　美咲

私には体の不自由な祖父がいました。祖父は、趣味のゴルフやパラグライダーなどをしていてとても元気に過ごしていました。

ある日、突然祖父は倒れてしまいました。脳内出血と言う病気でしばらく意識もない日々が続きました。私は何度もお見舞いに行きましたが、祖父の意識は、なかなか戻りませんでした。祖父の意識が戻ったのは一ヶ月後くらいだったと思います。意識が戻った後、祖父には後遺症が残りました。

言葉も今までの様には上手に話す事が出来なくなり、まだ幼かった私には、何を言いたいのか理解出来ませんでした。何かを伝えたい祖父の気持ちを分かってあげられず、祖父は話すのをやめてニコニコしていました。祖父は半身不随になってしまい、右側半分が不自由になってしまいました。リハビリをがんばっていて、最初は一人で立つ事も出来なかったのですが、杖を使って一人で歩ける様になりました。

ずっと入院していた祖父も退院する事になり、私達と一緒に暮らす事になりました。祖父は、トイレも一人で行けて、ごはんも左手でしたが上手にスプーンを使って食べていました。糖尿病も患っていたので食前と食後にたくさんの薬を飲んでいました。私もたまにお手伝いをしていました。今思えば、ほんの少しの手助けですが、祖父はいつも笑顔で

「ありがとう。」

と言ってくれました。私の出来る手伝いは、ドアを押さえてあげたり、食事を運んだりと本当に少しの事ですが、体の不自由な祖父にとっては、助かっている様に思えました。私は、母の様に転んでしまった祖父を起こしてあげたり、食事の仕度をしたり毎日一緒に居てお世話をしてあげる事は出来ませんでしたが、大変な母の手伝いをしてあげたいと私なりに母を助けてあげました。

祖父も家での生活に慣れて来て、毎週水曜日に、デイサービスへ行くとお風呂に入って、周りの人達と工作をしたり、歌をうたったりと最初は、少し恥かしかった様ですが通って行くにつれ、デイサービスに通うのが、とても楽しみになっていました。

「今日は、何曜日だ？」

と、水曜日が来るのが待ちきれない様子でした。デイサービスに祖父が通う事により、祖母や母も、自分の時間を持つ事ができ、デイサービスのおかげで、家族みんなが助けてもらい、笑顔になれました。

施設には、リハビリや歩行練習の出来るスペースもあり、施設の職員の方々が親切に指導してくれていました。デイサービスだけでなく、ショートステイと言って宿泊の環境も整っていて、月に一回くらいのペースで宿泊をしたりもしていました。施設では、栄養バランスの整っている食事やおやつ、適度な運動も出来るので、家にずっと居るより、健康でとても良い環境だと思います。家と違い

段差もないので、つまずいて転んだりする事もなく安全です。

祖父が病気になり、今まで知らなかった世界を知る事が出来ました。健康でいられる事が一番、良いのですが、今まで、気づけなかった事や、少しの優しさや気づかいで困っている人の手助けが出きる事を知りました。

そんな祖父を思い出し、私も将来、人を笑顔にする仕事につきたいと思う様になって来ました。幼い頃から保育士になりたいと思っていたのですが、中学生になり少し夢も変わり、最近では、障害のある子供達に関わる仕事につきたいと思う様になりました。まだ、どの様な職種があるのか私は分かりません。中学生の間に色々調べて自分に合った仕事をみつけたいです。私は声も大きく、楽しい事が大好きです。人のお世話をする事も好きなので、今は、私に出来る事をして行きたいと思います。日常で困っている人を見かけたら、見てみぬふりをするのではなく、「大丈夫ですか？」と、声をかけてあげれる様になりたいです。ほんの少しの勇気で、私の祖父の様に笑顔になれる人を、たくさん見ていきたいと思います。

花（えがお）を絶やさないように

銚子市立第六中学校
二年　金子　瑞季

「わぁ、久しぶり！元気だった？大きくなりましたねー。」

一つの家族が現れる度に大騒ぎ。これは、私の夏休みの一番の思い出です。私の兄は発達障害をもっています。以前、障害をもつ子どもとその家族を支援するための「コスモスの花」という施設に通っていたことがありました。その仲間達とは、今でも交流が続いていて、この夏に久しぶりに再会したのです。

「コスモスの花」に通っている頃、私も兄と一緒に出かけていました。そこでは歌を歌ったり、お菓子を作ったり、工作をしたり、とても楽しいところでした。先生も優しくて、仲間もいっぱいいました。施設で過ごすことが私にとって「特別」だったのは、障害をもつ子ども達の兄弟も来ていたことです。私はその子達と遊ぶのが大好きで、週に一回のその時間が楽しみでしかたがありませんでした。障害をもった兄弟をもつ仲間と話すと共感できるし、安心しました。私もその時は小さくて、そのような難しい感情を持っていなかったとは思いますが、今思えばそのような感じだったと思います。そして何より、そこでだけ兄は「特別」ではなかったのです。「特別」というのは、兄はやはり、一緒にいると目立つということです。小さい頃の兄は突然走り出したり、パニックになって大騒ぎしたり、それはもう大変でした。周りの人には迷惑がられたり、「ああ、障害をもっているのね。ならしょうがないね。」というような、妙に優しい目を向けられたり。他の子とは違う、ということが明らかでした。「特別」だったのです。家族も兄中心で回っていることが多かったのですが、「コスモスの花」では違っていたのです。「特別」が集まればもう「特別」ではありません。そして何より、母が私を見てくれることが嬉しかったです。先生がプロなので、安心して兄を任せられるからです。普段、家では兄中心。出かけていても兄を追いかける。みんなには私が見えていないのだろうか、と思うこともありました。「お兄ちゃんのため。大丈夫、私のことも本当は見てくれている。」と心に言い聞か

せていました。けれど、心のどこかでやはり「寂しい」という思いがあったのだと思います。兄のことは好きだったし、一緒に遊んだりもしたけれど、苦労が多くありました。だから私は良い子でいないとダメだ。パパとママを困らせてはいけないんだ、という思いから、いつも我慢をしていた私も、家族や周りの人に甘えることのできる場所が、その施設だったのです。障害をもつ子どもとその家族をサポートしてくれる「コスモスの花」。たくさんの家族がそこを憩いの場としていたのではないかと思います。ここで過ごしたことが、私の将来の夢につながってくるとは、そのときは思いもしませんでした。

今年の夏休み、私は職場体験学習で、ロザリオ発達支援センター（ふたば保育園）に行くことにしました。きっかけは、「コスモスの花」の先生です。子ども達を楽しく遊ばせ、その家族もサポートし、常に不安を吹き飛ばすような大きな声と優しい笑顔に憧れていました。いくつもある実習先の中で、その職業に一番近いと思ったのがふたば保育園だと感じたので、そこで体験させていただいたのです。打ち合わせのときから念押しされていたのが、「元気に楽しく笑顔で」ということでした。担当の方がおっしゃったことは、「子ども達は言葉で返してくれるわけではなくても、話しかけてあげれば何らかの反応を見せてくれます。こちらがオーバーリアクションをすれば喜んでくれるはずです。こっちが不安になると敏感な子ども達にも伝わってしまうので、とにかく自分も楽しくすることを心がけてほしいです。」ということでした。子ども達を楽しませるにはどうすればいいんだろうと私は不安に思っていました。でも「楽しませよう」ではなく「楽しもう」と考えを変えることで子ども達も楽しんでくれるのではないかと思い、当日やってみました。最初は緊張してしまい、ひどい有様でしたが、午後の自由時間になると、自分も楽しくなれたし、子ども達も楽しそうに笑ってくれていました。

「コスモスの花」の先生の笑顔は、子ども達の笑顔をたくさん見たからあるのではないかと思います。障害をもつ子ども達は感情表現が苦手です。でも、だからこそ偽りの笑顔はありません。それを知っている先生達は、子ども達の笑顔を見るたび、本当に心からの笑顔になれるのだと思います。障害をもつ子達が素敵な笑顔を絶やさぬために、私もそんな職業に就きたいです。そして、障害をもつ人もそうでない人も、みんなが優しい心をもって、心から笑顔になるために、私も笑顔が「花」となれるよう過ごしていきたいです。

始めよう、ボランティア

旭市立第一中学校
三年　成井　希帆

私は、障がいを持っている人が快適に過ごすことのできる空間を作れたら、私たちにとっても、過ごしやすい社会になると思います。

私の家の近くには「ロザリオ福祉施設」があります。小学校五年生の夏休みに「福祉体験をしてみたい。」と思い、施設にうかがいました。

施設の中の通路は、車いすがすれ違うことのできる広さでした。介護士さんは利用者さんが過ごしやすいように、周りを見て声をかけていました。

同じ敷地内の保育園にも行きました。子どもの人数は、六人くらいでした。一緒に手遊びをしたり、積み木をしたりしました。手

をあまり動かすことのできない子は、足を使うやわらかい積み木など、様々な工夫がされていました。

また、洗濯室がありました。そこには、六、七台の大きい洗濯機と、五台くらいの乾燥機がありました。私は台数に驚きましたが、利用者さんは、自分が思うように手を動かすことができず、ご飯などをこぼしてしまうことが多いからだそうです。

私が「ロザリオ福祉施設」で一番印象に残ったことは、介護士さんが、一人ひとりの利用者さんに合わせて、工夫をされていたことです。例えば、食べ物や飲み物は、私たちが食べる物とは見るからに形が違いました。細かく切ってあるものや、スープのようになっているものがありました。飲み物は、とろみがついていて少し驚きました。食べ比べをすると、味はどれも同じように私は感じました。食べ物だけでなく、廊下や子どもの遊ぶものの工夫にも、介護士さんの愛情がこもっているように感じました。

毎年九月に「ロザリオ福祉まつり」が開催されています。私は小学五年生からボランティアとして参加しています。「ボランティア」と聞くと「難しい」というイメージを持つ人が多いと思います。私も最初はそう思っていました。しかし、「ロザリオ福祉まつり」のボランティア活動は、とても楽しいものです。「ロザリオ福祉施設」の利用者さんが手作りした物をバザーの店員として売り出したり、会場内を歩きながら、募金活動をしたりします。まつりに来てくれた方達はもちろん、ボランティアをしている私たちも楽しんで活動しています。福祉まつりは、健常者の人も、障がいをもっている人も参加できます。子どもが遊べる所、動物とふれあうことのできるミニ動物園、たくさん出店しているバザーなど、子どもから大人まで誰でも楽しむことができます。介護士さんや、たくさんのボランティアの方々と協力し、毎年盛り上がった行事となっています。

私は、この「ロザリオ福祉施設」での体験がきっかけで、これからもボランティア活動や福祉活動に参加していこうと思うようになりました。そして、ここで障がいをもっている方々とふれあうなかで「少しでも助けたい」という気持ちを持つようになりました。しかしなかには、障がいをもっている方と関わることにしり込みをしている人もいると思います。また、偏見の目で見てしまうこともあるかもしれません。でも、自分の目の前で不自由な思いをしたり、困ったりしている人を見て、そのままにするのは快いものではありません。そんなときはお互いに笑顔になれるよう、行動に移すことができるようにしたいと思います。

そのためには、まずはボランティア活動に参加してみることが大切だと私は思います。積極的にボランティア活動に参加することで気持ちは変わります。私自身もそうでした。私も福祉については知らないことがたくさんあります。しかし、難しく考えず楽しい時間を一緒に過ごすことから始めても良いのではないかと思います。障がい者の方々と一緒にふれあうことで、自分がどうすればよいのかが少しずつ見えてくるかもしれません。障がい者の人もそうでない人も、互いに支え合い、明るく過ごせる社会になることが私の理想です。その実現に向けて、これからも私は、ボランティア活動や福祉活動に参加していこうと思います。

第27回福祉作文コンクール入賞者

小学4年生の部

1席　旭市立中央小学校　金谷　実咲輝
2席　旭市立嚶鳴小学校　石毛　歌楽
2席　旭市立豊畑小学校　飯島　真響
2席　旭市立古城小学校　野口　璃子
3席　旭市立中央小学校　平山　時季子
3席　旭市立干潟小学校　平山　和奏

小学5年生の部

1席　旭市立嚶鳴小学校　釜形　優衣奈
2席　旭市立豊畑小学校　宇井　凜桜
2席　旭市立中央小学校　小川　緩菜
3席　旭市立干潟小学校　長谷川　航汰
3席　旭市立中央小学校　越川　佳音
3席　銚子市立双葉小学校　小林　茉緒

小学6年生の部

1席　旭市立豊畑小学校　石槁　陽光
2席　旭市立中央小学校　林　青空
2席　旭市立共和小学校　丸山　心優
3席　旭市立中央小学校　大木　愛結
3席　旭市立琴田小学校　鈴木　悠太
3席　旭市立干潟小学校　鈴木　義央

中学1年生の部

1席　旭市立海上中学校　浅野　美咲
2席　旭市立第一中学校　稲村　心愛
2席　旭市立第二中学校　江波戸　莉夢
3席　旭市立飯岡中学校　菅生　果玲采
3席　旭市立海上中学校　飯田　翔太
3席　匝瑳市立八日市場第一中学校　今井　香純

中学2年生の部

1席　銚子市立第六中学校　金子　瑞季
2席　旭市立飯岡中学校　岩瀬　蓮
2席　旭市立飯岡中学校　加瀬　野乃香
3席　旭市立第二中学校　宍倉　美波
3席　銚子市立銚子中学校　川村　陽花里
3席　旭市立飯岡中学校　石井　奏音
3席　旭市立第二中学校　塙　唯吹

中学3年生の部

1席　旭市立第一中学校　成井　希帆
2席　旭市立飯岡中学校　渡辺　大介
2席　匝瑳市立野栄中学校　佐々木　香花
3席　旭市立飯岡中学校　平野　奈々美
3席　旭市立海上中学校　伊藤　彩弥香
3席　匝瑳市立八日市場第一中学校　及川　愛莉

医療保護施設
訪問看護ステーション
海上寮療養所
就労継続支援B型事業所
ソフィア
医療型障害児入所施設・療養介護事業所
ワークセンター
生活介護・児童発達支援・放課後等デイサービス（重心）
聖母療育園
児童発達支援事業
聖母通園センター
児童発達支援事業
ロザリオ発達支援センター
児童発達支援事業
旭市こども発達センター
障害者支援施設
聖マリア園
障害者支援施設
聖家族園
障がい者の就労促進事業所
みんなの家
生活介護事業所
聖家族作業所
共同生活援助事業所
ナザレの家あさひ
高齢者支援事業
ロザリオ高齢者支援センター
通所介護・介護予防通所事業所
ロザリオ訪問介護事業所
障害者支援施設
佐原聖家族園
生活介護・放課後等デイサービス
デイサービスセンター・ローザ
共同生活援助事業所
聖ヨセフつどいの家
地域生活支援センター
ナザレの家かとり
中核地域生活支援センター
友の家
障害者就業・生活支援センター
海匝ネットワーク
香取市相談支援事業
東総就業センター
障害者就業・生活支援センター
香取障害者支援センター
障害者相談支援事業
香取就業センター

このロゴマークは、師イエズス修道女会 北爪悦子修道女 により作成されました。